

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492500028	事業の開始年月日	平成19年2月1日
		指定年月日	平成19年2月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホーム みんなの家・逗子		
所在地	(249-0007) 神奈川県逗子市新宿4丁目16番地1号		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年12月11日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

GH逗子理念より①「地域に根ざした明るく楽しいホーム創りを！」をモットーに地域との繋がりを尊重し、活動しています。地域の祭典や、施設発信による交流の場の開催（体操プログラム・防災活動等）を展開しております。②「入居者様の笑顔を引き出す心のケアを！」の精神で日々のコミュニケーションを大切に、季節の行事やレクリエーションの開催、掃除や環境整備を分担してできる限り自立で行う生活活動の実施にて「生きる楽しさ」「必要とされる活気」の構築を目指しています。又、個々のご利用者様に合わせたケア方法をご家族様の意向を伺いながら考察・提案を行うことで、より親身に寄り添いその人らしい生活スタイルのご提供を目指しているグループホームです。2020年～2022年と新型コロナウイルス感染防止のため、会議会合の中止、外部者の行事参加・面会の規制がありました。家族会・運営推進会議を書式での報告や意見等の返送での収集、ブログの定期更新での施設様子の報告、ZOOM開催による体操や運動会開催等積極的にIT活用を行い、コンプライアンスを遵守しながら情報の開放を行っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月19日	評価機関 評価決定日	令和5年3月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR「逗子」駅から「鎌倉」駅行の京急バスで約20分の亀ヶ丘で下車、徒歩約2分のバス通りに面しています。高台の住宅地にある鉄骨2階建てで、隣には多目的利用が出来る、逗子市地域活動センターがあります。2年前からALSOK介護株式会社が運営しています。

<優れている点>

運営推進会議には逗子市職員・自治会会長・地域包括支援センター長・民生委員及び新宿区長・建物オーナー・家族・法人事務局など、幅広い地域の関係者が出席しており、地域との密着をしっかりと出来ています。家族会も年に6回の開催です。（コロナ禍の現在は両会議共に、現状は書面開催家となっています）また、年間計画に基づく研修や資格取得の受講日は勤務扱いとし、取得費用を支援するなど、職員のスキルアップに力を入れています。認知機能維持・回復の為にオリジナル体操「ノーアエクササイズ」を毎週行っています。法人理念をベースにして、職員は一人ひとりが年間目標を立てて支援活動をしています。

<工夫点>

月に8回のブログで、利用者の生活や活動状況を家族に発信しています。9室の入口全てがリビングに接しているため、利用者に便利であると同時に、職員には利用者の動向が確認しやすく安全な見守りとなっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム みんなの家・逗子
ユニット名	1Fユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
		事業所	4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理者と職員は毎朝の申し送り前に皆で理念を復唱し、意識し、共有しています。今年度は理念を具体的に展開、履行・確認を忘れずに目標を立て職員一人一人が目標を持ち実践に繋がっております。ホーム主催の行事を通して、または地域からのお誘いにより地域の催しに参加させて頂いております。(今年はコロナウイルス感染防止の為、自粛中)	「最高の介護品質」という法人の事業方針に基づいて、「地域に根ざした笑顔のホーム」という事業所独自の理念を掲げています。それを実践する為の行動指針として、職員は一人ひとり日常の支援活動における自らの年間目標を立てています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所は自治会の会員になっており、回覧板や地域の方々のお誘いにより、地域の催しに参加させて頂いております。敬老会、夏祭りの参加他、近隣の方々にホームでの行事に参加して頂く等、交流を深めています。又、弊社独自の体操プログラム「NOAエクササイズ」を毎月施設を開放し、開催しています。(今年はコロナウイルス感染防止の為、外部参加の自粛対応中)	コロナ禍により、現状は自粛中となっておりますが、敬老会や夏祭りなど自治会行事に参加しています。ノーアエクササイズなど事業所の行事へ地域住民を招待しています。鎌倉市の地域活動センターの種々の活動にも参加しており、活発に、地域との繋がりを行っています。	コロナ禍前の地域との密接な繋がりを活かす為にも、関係者への連絡を絶やさないことが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	避難訓練や炊き出し訓練時 参加して頂くことにより理解を深めて頂いています。認知症の人の理解や支援の方法を一緒に考え、その方を支える家族の支援の場として地域に開かれた施設です。又、H30.1月より「NOAエクササイズ」を月1回開催し、地域に発信しています。(今年はコロナウイルス感染防止の為、外部参加の自粛中)	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年間事業計画の取り組み状況、事故ヒヤリ報告、現在の状況等を詳細に報告し、出席された委員の方より意見を頂いたものは、迅速に対応をしています。(答えを必ず報告しています)(今年はコロナウイルス感染防止の為、会議は書式での開催報告)	運営推進会議には逗子市職員をはじめ、自治会・2つの小学校区会・地域包括支援センター・民生委員・家族・法人事務局員・事業所建物のオーナーなど多数の関係者が出席し、助言や要望など活発な討論が行われています(現状は文書でのやりとり)。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に出席して頂いている他、必要に応じて、ホームの実情やケアの取り組み等伝え、相談するように努めています。	事業所の実情の報告と相談の連絡を、逗子市役所の高齢介護課と交わしています。民生委員との協力は社会福祉課と連携しています。コロナクラスター発生時には、神奈川県医療危機対策本部へ報告し、指導と助言を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	奇数月の身体拘束委員会開催や、年2回以上の研修会（6月と11月）にて意識の向上を図り、個々の事例検討を毎月のフロア会議内で実施し、身体拘束マニュアルに基づき身体拘束をしないケアの見直しに取り組んでおります。玄関前は幹線道路の為施錠していますが、希望の外出時は職員同行によりいつでも対応できます。	年間計画に従い身体拘束適正化委員会を開催しています。本人提示の事例をテーマに議論・検討を行っています。研修後はパート職員も含めて、全職員がレポートを作成し報告しています。グレーゾーンの対処方法や、スピーチロックについてのテーマが主な研修課題となっています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎出勤時の「虐待ゼロへの行動指針の唱和、虐待防止委員会の設置、チェックシートの取り組み等を偶数月での虐待防止委員会議で検討、年1回以上の高齢者虐待防止研修（9月）を行い、意識の向上と本部との情報共有を行い、会社全体として取り組んでいます。	年に5回の虐待防止委員会を開催し、本人から提示の事例検討をしています。毎年12項目のチェックシートで、全員が支援活動における振り返りをしています。職員のストレス軽減の為に、休暇取得には職員の希望を極力採り入れています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は該当がありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約決定時に事前に重説・契約書の見本をお送りし、一読して頂いたうえで、契約時ご家族様に納得して頂けるよう説明をしております。また、面会時等にご家族が抱えている悩みや不安があれば聞かせて頂き、理解するよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	要望、苦情の問い合わせ窓口を設置しています。御家族様の直接の意見を反映できるよう行事にあわせ家族会を年6回設け、意見を運営に反映させています。（今年は新型コロナウイルス蔓延防止の為、会議の中止となりましたが、書式の送付にてご意見ご要望をいただくこととなりました。）	コロナ禍により、現状は自粛中ですが、家族会を年に6回開催しています。運営推進会議にも家族が参加して、意見や要望を聴いています。ブログを月に8回の目標で発信し、利用者の日々の様子を伝え、家族の安心に繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	本部の伝達事項や毎月の事業所長会議の内容をフロア会議や全体会議、職員伝達ノートなどを活用して伝達するとともに、職員の意見や提案を取りまとめ、必要時には本部へ伝達するように努めています。	毎月の全体会議や伝達ノートで、月毎の行事やレクリエーションについての職員の意見や企画を取り入れています。重要な意見は、本人にも提案しています。年に2回の個人面談の際にも、意見のヒアリングをしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課と職員面談を実施しており、その結果を昇給や賞与に反映し、積極的に昇進の機会を考察しております。仕事の効率化を目指し、職員の相談や困りごとなど普段よりコミュニケーションを心がけ、ストレスなく働ける職場環境と休憩時間の安定や希望休取得、定時退社を目指した時間管理をすることを目標としています。	年2回の人事考課では、単に年功序列にならないように、日常の業務における評価を重視しています。管理者は時間外労働の有無をチェックし、休憩や休暇の取得に努めています。事業所内の人間関係のストレスにも気を配っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修制度には力を注いでおり、職階別研修や中途入社研修、介護や制度に関する研修、資格取得に向けた研修を実施しています。（今年は新型コロナウイルス感染防止の為、中止などがありました）	職員全員に対して介護や制度に関する全体的な研修と、感染症や看取りなど具体的な事案に関する研修を行うと共に、職階別研修も行っています。資格取得に際しては研修出席日を勤務扱いとし、資格取得後は受講費用の補助も行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内にある他の施設と行事を通して交流を持つため、施設行事のお誘い等を行い、振興を図っています。（今年は新型コロナウイルス感染防止の為、自粛中）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様の事前相談でこれまでの生活歴を伺い、ご本人様の求めていること、習慣 不安なことを理解し、受け止める努力をしています。出来るだけ自宅と同じような居室環境を作り馴染み物や家具等を取り入れ、入所後も各職員が事前に得た情報などをまとめ、ご本人が安心して過ごして頂けるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面談、アセスメントをとおし、御家族様のご苦勞をお察しし、不安なことや要望等伺うようにしています。入居後はご本人様の様子を適宜伝えしながら、ご家族の要望等に出来るだけ添うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の状態をよく観察しグループホームでの生活環境があっているのか等のように利用者様第一に考えた上、ホームでのサービス提供、必要であれば外部のサービスが受けられるか検討、支援に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する側、される側関係なく、ひとつの家族として個々に合わせた生活が送れるよう、ご利用者様を巻き込んだ生活をしています。生活リハビリ表を作成し御利用者様が主体的に生活できるように共働関係を築いております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様にお便りなどを通し、行事への参加を呼びかけ、共に支えていく関係を築いています。ADLの低下に伴い、ご利用者様のお好きなものをご家族様に持ってきて頂いたりして、本人を支えていく関係を築いています。ご家族様の来設時や電話対応時には状況・状態の報告を聞く場面を作っております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域行事の参加や、ご家族様を通じてご自宅で過ごされていた時の活動内容を把握した上で、ご家族様にもご協力を伺い、ご本人様の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。今年にはコロナウイルス感染防止の為、面会制限がありました)	コロナ禍の現状では、人との出会いや人混みへの外出は自粛していますが、趣味や習い事で、自宅での生活を継続しています。懐かしい歌を歌ったり、ガーデニングの趣味を活かして、玄関の生け花を楽しむ利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係がうまくいくよう席替えをしたり、会話の橋渡しをしています。ご利用者様が孤立しないよう配慮しながらお手伝いをお願いしたり、お声掛けを行っています。気分転換に1F・2F合同の場を設けたりしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された入居者様のご家族が気軽にホームに立ちよって下さることもあります。（今年はコロナウイルス感染防止の為、面会制限ありました）		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の様子からご本人様の意向を考察したり、ご家族様からの情報、意向を把握し検討事項があれば職員や関係各所との相談を迅速に行い、対応しています。	半年毎に「入居者様の介護方法のご意向について」や「新プランご意向記入表」により家族から希望を聞いています。「申し送りノート」には日常の介護の中で望んでいることや行いたいことなどを記録しています。職員間で情報を共有して思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の情報、ご家族からの情報を総括し、日々の様子などから一人ひとりの暮らし方を把握するために生活記録を始め、様々なチェック表を作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様一人ひとりの生活のリズムを理解し、その日の心身状態を総合的に把握するために生活記録をはじめ様々なチェック表を作成しています。また、支援内容や状況の把握、変化を含め月1階職員全体でモニタリングを行い、支援状況の確認や情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントの内容とご家族様の意向を基にカンファレンスを行っています。モニタリングも定期的実施し、ケアプランに反映させています。また必要に応じてヒヤリハットからカンファレンスを行い介護計画反映に取り組んでいます。	ケアプランは見直し3ヶ月毎、更新6ヶ月単位で行っています。モニタリングは毎月職員全体で行いケアプランに反映しています。家族の意向や医療関係者からの情報、提案を織り込み、その人にあったケアプランにするよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の体調管理を把握し、その日の状態を申し送りにて共有する他、生活記録にて過去何日かの様子を確認することで情報を共有し、実践に活かして素早い対応をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	協力医療機関の訪問診療と臨時往診を受けられる体制があり、電話連絡、往診等の対応で、ご利用者様の安心、安全が保たれるよう支援を行っています。また、医療リハビリ等や機関への紹介も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議等で得られた情報により、地域有識者や消防署のお力添えを頂き、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる支援をしております。地域でのグループホームの役割を担い、地域の一員としての貢献しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居の際にご家族様からのご希望を伺い、提携の内科医を紹介すると共に24時間体制による医療相談ができることで、適切な医療を受けられるように支援しております。	内科や歯科はそれぞれの協力医による月2回の訪問診療を受けています。医療連携体制での法人看護師による毎週の健康管理を行っています。医療的ケアを必要とする人には個別の訪問看護の来訪があります。服薬支援システムを導入し、人為的なミスを防ぎ、入居者の服薬履歴を細かく把握できる、より安全な支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携看護師が週1回来設するため、日常の健康管理相談や医療活用支援他往診医との連携により早期発見、適切な処置がなされるよう支援しています。また訪問看護ステーションから派遣された訪問看護師により、特別指示書にて看護されている方もおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを医療機関に届け、医師、看護師に容態を伺い情報交換や相談に努めています。またご家族様、医療機関、事業所が協働しながら退院に向けた話し合いが持たれています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師の診断をふまえてご本人様やご家族様の意向に配慮しつつ その方らしく生きることを目標に 事業所が対応できる最大の支援方法を踏まえて話し合い、ご家族様や医師と協力・連携を図りながら、関係各所にも看取り介護対応中であることを伝え、チームで支援しています。	事業所の方針として、終末期の対応を前向きに捉え、希望に応えられるよう取り組んでいます。介護経験の豊かな職員を中心に、利用者や家族の意向を共有しています。昨年は複数の看取りケアを行っています。家族や関係医療機関、職員との連携を密にとりながら支援を進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、事故発生時のマニュアルのもと連絡体制を作成し 速やかに対処できるように実践力を身につけています。定期的に緊急時対応のシミュレーションを行っている他、AEDをつかった救命方法も対応しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議や家族会等で報告や年2回以上の避難訓練、年1回以上の水防訓練（土砂災害）の実施、台風等の情報収集をいち早く行い、備品の確保や垂直避難の対応を行っています。又、地域の避難所まで行くのが困難な方への一時的な避難者受け入れも呼び掛けております。	2回の消防訓練に加え土砂災害対応訓練を行っています。現状では消防署員の立ち会いや地域の参加には至っておりませんが事業所主体で訓練を行っています。「自然災害発生時における業務継続計画（BCP）」に備蓄品リストを反映し保管・管理をしています。	備蓄品リストにより災害時に必要な食料、水などの保管を行っています。緊急機材（携帯ラジオ・ヘルメット・コンロなど）の備品類の備蓄も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格や心身の状態を把握し、ケアプランを基にその方にあった言葉かけや対応を心掛けている他守秘義務について十分理解し責任ある管理を徹底しています。また感謝の気持ちを表す言葉を心がけております。	接し方や言葉遣いに気を付け、利用者の誇りを傷つけないよう配慮しています。声掛けの際には苗字にさん付けをするよう統一しています。トイレ誘導の際などもプライバシーを損ねないよう周囲に目配りをしながら言葉掛けをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の生活のペースに合わせて、その人らしく生活が送れるよう支援しています。また、その都度、意向を伺いご利用者様の判断を仰ぐようにしています。職員の自己判断だけではなくご本人様にも確認して意見を聞き出せるような支援を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の個性を大切にし『自己決定』『残存機能の活用』をするなどして、ご利用者様の意思を大切に支援しています。やりたくないことに対しては強要はせず何をしたいかを考えケアに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の整容のお手伝いを行っております。髪のとかし方や、本日着る服の選択をして頂く等、なるべくご本人様の嗜好に即した方法を取るようにしています。又、3か月に一度訪問理美容による整髪を行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の支度や配膳、下膳などをスタッフと一緒にしています。また、お誕生会や行事の際は、なるべくお好みのメニューを提供できるよう努めています。また生活リハビリの一環として利用者様が率先して行うよう支援しております。	メニューの作成と調理済み食材を外部業者に委託し提供しています。利用者はテーブル拭きなどの手伝いで参加をしています。食事前には職員による嚥下体操や口腔体操などを一緒に行っています。おやつは好みのものを購入し提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量として1日1500～1600カロリーを目安として記録にも記載しています。水分も1日1000cc以上を目安に摂取できるよう支援し、摂取量を記録しています。また医療と連携し、食事形態の工夫や褥瘡予防にむけたタンパクゼリーやムース食の摂取等 一人ひとりの状態に合わせた摂取を心がけ取組んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科衛生士が月4回、歯科医が月2回往診するほか、職員が指導を受け、毎食後、ご利用者様の力に応じた口腔ケアを行っています。嚥下機能を高め、重度ケアとして清潔を保持できるような支援にも力を入れています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。また医療と連携し、排泄リズムの構築など自立した排泄に向けた支援を行い、健康面でのサポートに努めています。	「排泄チェック表」により一人ひとりのパターンを把握し、トイレでの排泄を支援しています。声かけの時には周囲に配慮し小声で行うなどしています。夜間はおむつの使用もありますが出来るだけトイレ排泄に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の有無を排泄表に記載し、医師に相談、その方にあった服薬や食物や飲料を提供しております。ご家族と相談しながら散歩や体操などを勧め、便秘予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者様の体調を事前にチェックし、御本人様に希望を伺い、極力の同性介助など出来るだけ希望にそうよう努めています。基本的に1対1ケアが基本としていますが、必要であれば、複数の職員で対応することもあります。	入浴は週2回午前中を基本に行っています。2階の個浴と1階のリフト浴の2種類を備えており、その人に合った浴槽を使用しています。浴室と更衣室の温度を適切に保ち安全に入浴できるよう配慮しています。シャンプーなどは備え付けのものを使用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を増やし、夜間は良眠できるよう支援しています。安心されるような声かけや個々に合わせた室内の工夫をし支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅管理指導に基づいて、薬局のハックドラッグと連携し服薬管理を行っています。また、職員一人ひとりが服薬表の内容を把握し、Wチェックの実施、服薬支援と病状の変化の確認に努めています。又、今年度より服薬支援システム「服やっくん」の導入をしており服薬に対してより安全面を強化し安心して服薬出来るよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の潜在している記憶や力を活かし、家事や趣味等、役割を持って頂いています。気分転換に近所のコンビニへ買い物に付き添ったりしています。又、ZOOMの活用による健康体操プログラムを定期的実施し、活気ある日常の提供に努めています。(コロナウイルス感染防止の為、訪問ボランティアの受け入れ自粛中)		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族様の協力をえて、外出支援をしています。又、なるべく天気の良い日は、近所にお散歩やお菓子の買い物のお手伝いに努めています。(今年はコロナウイルス感染防止の為、近所での散歩のみとなりました)	感染症対策により、散歩の機会は限られていますが、出来るだけ外気浴できるよう努めています。春には建屋の近くの桜の木が窓から望め、花見が楽しめる眺望となっています。コロナ禍が収まれば外出の機会を増やすことにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来る時は職員の付き添いのもと、できる方は買い物の際、レジでお金を支払って頂くなどの支援をしています。(今年はコロナウイルス感染防止の為、自粛となりました。)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナウイルス感染防止のため、施設面会の制限がありましたが、ご利用者の希望に応じ電話の取次や、ポスト投函をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や居間は季節感のある物を飾るように心掛けています。浴室やトイレ等も気持ちよく出入りできるように定期的な清掃・清潔に配慮し、和やかな空間になるよう努めています。	リビングルームの周りに居室が配置され生活しやすい動線になっています。利用者がリビングルームを中心に過ごし、思い思いに居室に戻り休めるような環境に努めています。「清掃・安全管理表」による室内の整備をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはテレビやソファを置いて家庭的な共有の空間作りをしています。また利用者様の作成された作品を展示したり、居心地の良い場所を提起しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、使い慣れた日用品を持ってきて頂いており、自前のふとんを持ち込みされているご利用者様もいます。テレビ、チェア、アルバムなどご本人様が心地よく過ごせるよう配慮しています。	介護用電動ベッド・エアコン・カーテン・クローゼット・チェスト・洗面台などを備えています。利用者はテレビやラジオ、写真や時計など思い思いの品物を持ち込み心地良い部屋作りをしています。「居室清掃表」を使い室内を清潔に保つよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも完備されているため安全で自立した生活が送れます。お一人お一人の出来る事、わかる事を活かして簡単な日常作業の手伝いなど、自己決定のもと活気ある生活が送れるよう適宜、環境整備を工夫しております。		

事業所名	グループホーム みんなの家・逗子
ユニット名	2Fユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理者と職員は毎朝の申し送り前に皆で理念を復唱し、意識し、共有しています。今年度は理念を具体的に展開、履行・確認を忘れずに 目標を立て職員一人一人が目標を持ち実践に繋げております。ホーム主催の行事を通して、または地域からのお誘いにより地域の催しに参加させて頂いております。(今年は新型コロナウイルス感染防止の為、自粛中)		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所は自治会の会員になっており、回覧板や地域の方々のお誘いにより、地域の催しに参加させて頂いております。敬老会、夏祭りの参加他、近隣の方々にホームでの行事に参加して頂く等、交流を深めています。又、弊社独自の体操プログラム「NOAエクササイズ」を毎月施設を開放し、開催しています。(今年は新型コロナウイルス感染防止の為、外部参加の自粛対応中)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	避難訓練や炊き出し訓練時 参加して頂くことにより理解を深めて頂いています。認知症の人の理解や支援の方法を一緒に考え、その方を支える家族の支援の場として地域に開かれた施設です。又、H30.1月より「NOAエクササイズ」を月1回開催し、地域に発信しています。(今年は新型コロナウイルス感染防止の為、外部参加の自粛中)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年間事業計画の取組み状況、事故ヒヤリ報告、現在の状況等を詳細に報告し、出席された委員の方より意見を頂いたものは、迅速に対応をしています。(答えを必ず報告しています) (今年は新型コロナウイルス感染防止の為、会議は書式での開催報告)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に出席して頂いている他、必要に応じ、ホームの実情やケアの取組み等伝え、相談するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	奇数月の身体拘束委員会開催や、年2回以上の研修会（6月と11月）にて意識の向上を図り、個々の事例検討を毎月のフロア会議内で実施し、身体拘束マニュアルに基づき身体拘束をしないケアの見直しに取り組んでおります。玄関前は幹線道路の為施錠していますが、希望の外出時は職員同行によりいつでも対応できます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎出勤時の「虐待ゼロへの行動指針の唱和、虐待防止委員会の設置、チェックシートの取り組み等を偶数月での虐待防止委員会議で検討、年1回以上の高齢者虐待防止研修（9月）を行い、意識の向上と本部との情報共有を行い、会社全体として取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は該当がありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約決定時に事前に重説・契約書の見本をお送りし、一読して頂いたうえで、契約時ご家族様に納得して頂けるよう説明をしております。また、面会時等にご家族が抱えている悩みや不安があれば聞かせて頂き、理解するよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	要望、苦情の問い合わせ窓口を設置しています。御家族様の直接の意見を反映できるよう行事にあわせ家族会を年6回設け、意見を運営に反映させています。（今年は新型コロナウイルス蔓延防止の為、会議の中止となりましたが、書式の送付にてご意見ご要望をいただくこととなりました。）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	本部の伝達事項や毎月の事業所長会議の内容をフロア会議や全体会議、職員伝達ノートなどを活用して伝達するとともに、職員の意見や提案を取りまとめ、必要時には本部へ伝達するように努めています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課と職員面談を実施しており、その結果を昇給や賞与に反映し、積極的に昇進の機会を考察しております。仕事の効率化を目指し、職員の相談や困りごとなど普段よりコミュニケーションを心がけ、ストレスなく働ける職場環境と休憩時間の安定や希望休取得、定時退社を目指した時間管理をすることを目標としています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修制度には力を注いでおり、職階別研修や中途入社研修、介護や制度に関する研修、資格取得に向けた研修を実施しています。 (今年はコロナウイルス感染防止の為、中止などがありました)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内にある他の施設と行事を通して交流を持つため、施設行事のお誘い等を行い、振興を図っています。(今年はコロナウイルス感染防止の為、自粛中)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様の事前相談でこれまでの生活歴を伺い、ご本人様の求めていること、習慣不安なことを理解し、受け止める努力をしています。出来るだけ自宅と同じような居室環境を作り馴染みな物や家具等を取り入れ、入所後も各職員が事前に得た情報などをまとめ、ご本人が安心して過ごして頂けるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面談、アセスメントをとoshi、御家族様のご苦労をお察しし、不安なことや要望等伺うようにしています。入居後はご本人様の様子を適宜伝えしながら、ご家族の要望等に出来るだけ添うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の状態をよく観察しグループホームでの生活環境があっているのか等のように利用者様第一に考えた上、ホームでのサービス提供、必要であれば外部のサービスが受けられるか検討、支援に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する側、される側関係なく、ひとつの家族として個々に合わせた生活が送れるよう、ご利用者様を巻き込んだ生活をしています。生活リハビリ表を作成し御利用者様が主体的に生活できるよう共働関係を築いております。また支援は必要以上に行わずお互いに協働しながら元気に楽しく生活できるよう心掛		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様にお便りなどを通し、行事への参加を呼びかけ、共に支えていく関係を築いています。ADLの低下に伴い、ご利用者様のお好きなものをご家族様に持ってきて頂いたりして、本人を支えていく関係を築いています。ご家族様の来設時や電話対応時には状況・状態の報告を聞く場面を作っております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域行事の参加や、ご家族様を通じてご自宅で過ごされていた時の活動内容を把握した上で、ご家族様にもご協力を伺い、ご本人様の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。今年はコロナウイルス感染防止の為、面会制限がありました)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係がうまくいくよう席替えをしたり、会話の橋渡しをしています。ご利用者様が孤立しないよう配慮しながら家事・レクリエーションなどの活動を通じてそれぞれの役割を持って頂き職員が仲介することで孤立しないよう努めています。気分転換に1F・2F合同の場を設けたりしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された入居者様のご家族が気軽にホームに立ちよって下さることもあります。（今年はコロナウイルス感染防止の為、面会制限ありました）		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で行動や表情、声のトーンなどで思いや意向の把握に努めている。困難な場合はご家族様の意見などから本人本位となるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様からのお話基本情報として生活歴や習慣を情報収集し、入所してからの変化も含め生活記録や様々なチェック表を作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様一人ひとりの生活のリズムを理解し、その日の心身状態を総合的に把握するために生活記録をはじめ様々なチェック表を作成しています。また、支援内容や状況の把握、変化を含め月1階職員全体でモニタリングを行い、支援状況の確認や情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントの内容とご家族様の意向を基にカンファレンスを行っています。モニタリングも定期的実施し、ケアプランに反映させています。また必要に応じてヒヤリハットからカンファレンスを行い介護計画反映に取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の体調管理を把握し、その日の状態を申し送りにて共有する他、生活記録にて過去何日かの様子を確認することで情報を共有し、実践に活かして素早い対応をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	協力医療機関の訪問診療と臨時往診を受けられる体制があり、電話連絡、往診等の対応で、ご利用者様の安心、安全が保たれるよう支援を行っています。また、医療リハビリ等や機関への紹介も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議等で得られた情報により、地域有識者や消防署のお力添えを頂き、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる支援をしております。地域でのグループホームの役割を担い、地域の一員としての貢献しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居の際にご家族様からのご希望を伺い、提携の内科医を紹介すると共に24時間体制による医療相談ができることで、適切な医療を受けられるように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携看護師が週1回来設するため、日常の健康管理相談や医療活用支援他往診医との連携により早期発見、適切な処置がなされるよう支援しています。また訪問看護ステーションから派遣された訪問看護師により、特別指示書にて看護されている方もおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを医療機関に届け、医師、看護師に容態を伺い情報交換や相談に努めています。またご家族様、医療機関、事業所が協働しながら退院に向けた話し合いが持たれています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師の診断をふまえご本人様やご家族様の意向に配慮しつつ その方らしく生きることを目標に 事業所が対応できる最大の支援方法を踏まえて話し合い、ご家族様や医師と協力・連携を図りながら、関係各所にも看取り介護対応中であることを伝え、チームで支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、事故発生時のマニュアルのもと連絡体制を作成し 速やかに対処できるように実践力を身につけています。定期的に緊急時対応のシュミレーションを行っている他、AEDをつかった救命方法も対応しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議や家族会等で報告や年2回以上の避難訓練、年1回以上の水防訓練（土砂災害）の実施、台風等の情報収集をいち早く行い、備品の確保や垂直避難の対応を行っています。又、地域の避難所まで行くのが困難な方への一時的な避難者受け入れも呼び掛けております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格や心身の状態を把握し、ケアプランを基にその方にあった言葉かけや対応を心掛けている他守秘義務について十分理解し責任ある管理を徹底しています。また感謝の気持ちを表す言葉を心がけております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の生活のペースに合わせて、その人らしく生活が送れるよう支援しています。また、その都度、意向を伺いご利用者様の判断を仰ぐようにしています。職員の自己判断だけではなくご本人様にも確認して意見を聞き出せるような支援を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	認知症で医師相通が困難な状態であっても表情や反応などからあなづき職員の都合とならないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の整容のお手伝いを行っております。髪のとかし方や、本日着る服の選択をして頂く等、なるべくご本人様の嗜好に即した方法を取るようにしています。又、3か月に一度訪問理美容による整髪を行っております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の支度や配膳、下膳などをスタッフと一緒にに行っています。また、お誕生会や行事の際は、なるべくお好みのメニューを提供できるよう努めています。また生活リハビリの一環として利用者様が率先して行うよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量として1日1500～1600カロリーを目安として記録にも記載しています。水分も1日1000cc以上を目安に摂取できるよう支援し、摂取量を記録しています。また医療と連携し、食事形態の工夫や褥瘡予防にむけたタンパクゼリーやムース食の摂取等一人ひとりの状態に合わせた摂取を心がけ取り組んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科衛生士が月4回、歯科医が月2回往診するほか、職員が指導を受け、毎食後、ご本人の状態に応じた支援が出来るように確認をしながら口腔ケアを行っています。嚥下機能を高め、重度ケアとして清潔を保持できるような支援にも力を入れています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。また医療と連携し、排泄リズムの構築など自立した排泄に向けた支援を行い、健康面でのサポートに努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の有無を排泄表に記載し、医師に相談、その方にあった服薬や食物や飲料を提供しております。ご家族と相談しながら散歩や体操などを勧め、便秘予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者様の体調を事前にチェックし、御本人様に希望を伺い、極力の同性介助など出来るだけ希望にそよう努めています。基本的に1対1ケアが基本としていますが、必要であれば、複数の職員で対応することもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を増やし、夜間は良眠できるよう支援しています。安心されるような声かけや個々に合わせた室内の工夫をし支援しております。また、フロアか居室・本人の意思で選択し居室の温度調整や寝具の調節など安らげる様な環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅管理指導に基づいて、薬局のハックドラッグと連携し服薬管理を行っています。また、職員一人ひとりが服薬表の内容を把握し、Wチェックの実施、服薬支援と病状の変化の確認に努めています。又、今年度より服薬支援システム「服やっくん」の導入をしております。服薬に対してより安全面を強化し安心して服薬出来るよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の潜在している記憶や力を活かし、家事や趣味等、役割を持って頂いています。気分転換に近所のコンビニへ買い物に付き添ったりしています。又、ZOOMの活用による健康体操プログラムを定期的実施し、活気ある日常の提供に努めています。(コロナウイルス感染防止の為、訪問ボランティアの受け入れ自粛中)		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族様の協力をえて、外出支援をしています。又、なるべく天気の良い日は、近所にお散歩やお菓子の買い物のお手伝いに努めています。(コロナウイルス感染防止の為、近所での散歩のみとなりました)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来る時は職員の付き添いのもと、できる方は買い物の際、レジでお金を支払って頂くなどの支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナウイルス感染防止のため、施設面会の制限がありましたが、ご利用者の希望に応じ電話の取次や、ポスト投函をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や居間は季節感のある物を飾るように心掛けています。浴室やトイレ等も気持ちよく出入りできるように定期的な清掃・清潔に配慮し、和やかな空間になるよう努めています。室温の調整・照明・音楽やテレビの音量調節など快適に過ごせるよう調節しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはテレビやソファを置いて家庭的な共有の空間作りをしています。また利用者様の作成された作品を展示したり、居心地の良い場所を提起しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、使い慣れた日用品を持ってきて頂いており、自前のふとんを持ち込みされているご利用者様もいます。テレビ、チェア、アルバムなどご本人様が心地よく過ごせるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも完備されているため安全で自立した生活が送れます。お一人お一人の出来る事、わかる事を活かして簡単な日常作業の手伝いなど、自己決定のもと活気ある生活が送れるよう適宜、環境整備を工夫しております。		

2022年度

事業所名

作成日：令和 5 年 3月 17 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	最期までご本人様らしい生活が出来るよう支援していく。ご家族様に当施設で看てもらえることが出来て良かったと思って頂く事。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人様にとって苦痛を感じないよう心がける ・ご家族様にご本人様の状況を定期的に伝える 	12ヶ月
2	15	初期に築く本人との信頼関係	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っている事、不安なこと、要望などに耳を傾けながら、本人の安心を確保することが出来る関係を築いていく	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で本人の情報を共有していき生活リズムにあったサービスの提供、信頼関係を築いていく。 	12ヶ月
3	16	初期に築く家族等との信頼関係	サービスの利用を開始する段階で、家族などが困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾けながら、良好な関係を築いていく	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前の面談、アセスメントを通し不安なことや要望を伺う。 ・入居後は本人の様子を適宜お伝えしていく。 	12ヶ月
4	6	虐待の防止の徹底	虐待防止に向けて話し合い、接遇・虐待防止についての意識の向上させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切なケアだと感じた場合は職員同士話し合いや注意をしていく。 ・ご利用者様に対しての言葉使いをただしていく。 	12ヶ月
5	2	事業所とのつきあい	隣接している地域活動センターの行事参加がコロナ禍により少なくなっている為、以前参加していた頃の関係を築いていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、当事業所で陽性者が出たため参加を遠慮していたが少しずつ参加出来るようお声掛けさせて頂く。 	12ヶ月